

**凡例**

□ 計画地

--- 調査範囲

●→ 鳥類確認位置 (矢印は飛翔個体)

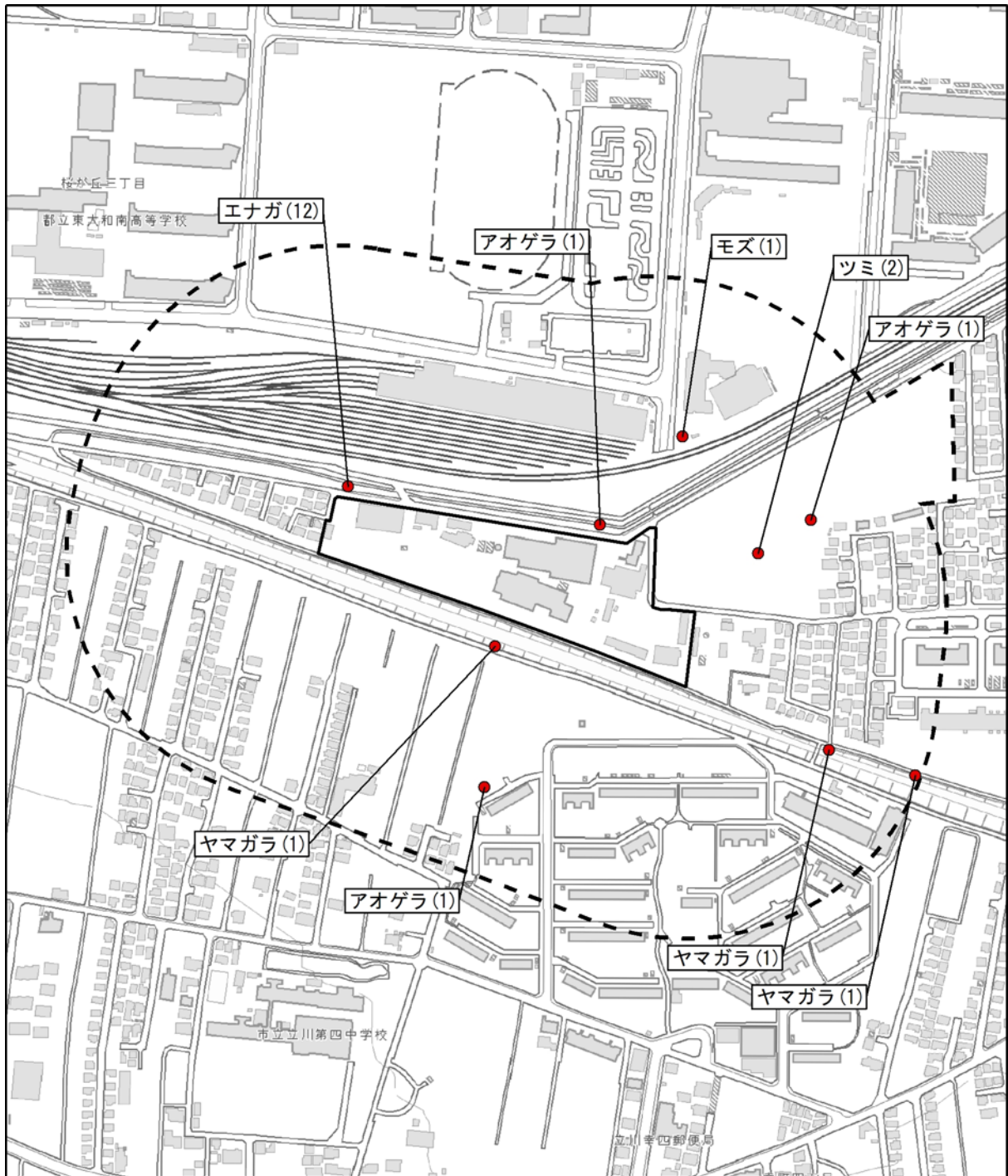


1:5,000

0 100 200 m

図 8.7-6(3)  
鳥類の注目される種確認位置図 (初夏季)

( )内は確認例数を示す。



**凡例**

- 計画地
- 調査範囲
- 鳥類確認位置



1:5,000

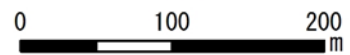


図 8.7-6(4)  
鳥類の注目される種確認位置図 (秋季)

( )内は確認例数を示す。

(c) 爬虫類及び両生類

i 確認状況

現地調査結果は表 8.7-12 に示すとおり、1 綱 2 目 4 科 4 種の爬虫類を確認した。なお、両生類は確認されなかった。

主に樹林や緑道、耕作地等でヒガシニホントカゲ及びニホンカナヘビが広い範囲で確認された。また、ミシシippアカミミガメは玉川上水で確認された。

表 8.7-12 爬虫類及び両生類の確認種一覧

No.	綱名	目名	科名	種名	調査時期		
					春季	夏季	秋季
1	爬虫	カメ	ヌマガメ	ミシシippアカミミガメ		○	
2		有鱗	ヤモリ	ニホンヤモリ	○		○
3			トカゲ	ヒガシニホントカゲ	○	○	○
4			カナヘビ	ニホンカナヘビ	○	○	○
計	1 綱	2 目	4 科	4 種	3 種	3 種	3 種

注 1) 種名、配列等は、原則として「日本産爬虫両生類標準和名リスト」(平成 29 年 5 月、日本爬虫両棲学会)に準拠した。

ii 注目される種

注目される種を選定した結果、表 8.7-13 に示すとおり、1 目 3 科 3 種が該当した。

注目される種の確認状況は表 8.7-14 に、確認地点は図 8.7-7 に示すとおりである。また、一般生態等は資料編 (p. 273 参照) に示すとおりである。

表 8.7-13 爬虫類及び両生類の注目される種一覧

No.	目名	科名	種名	選定基準			
				①	②	③	④
1	有鱗	ヤモリ	ニホンヤモリ				*
2		トカゲ	ヒガシニホントカゲ				VU
3		カナヘビ	ニホンカナヘビ				VU
計	1 目	3 科	3 種	0 種	0 種	0 種	3 種

注 1) 種名、配列等は、原則として「日本産爬虫両生類標準和名リスト」(平成 29 年 5 月、日本爬虫両棲学会)に準拠した。

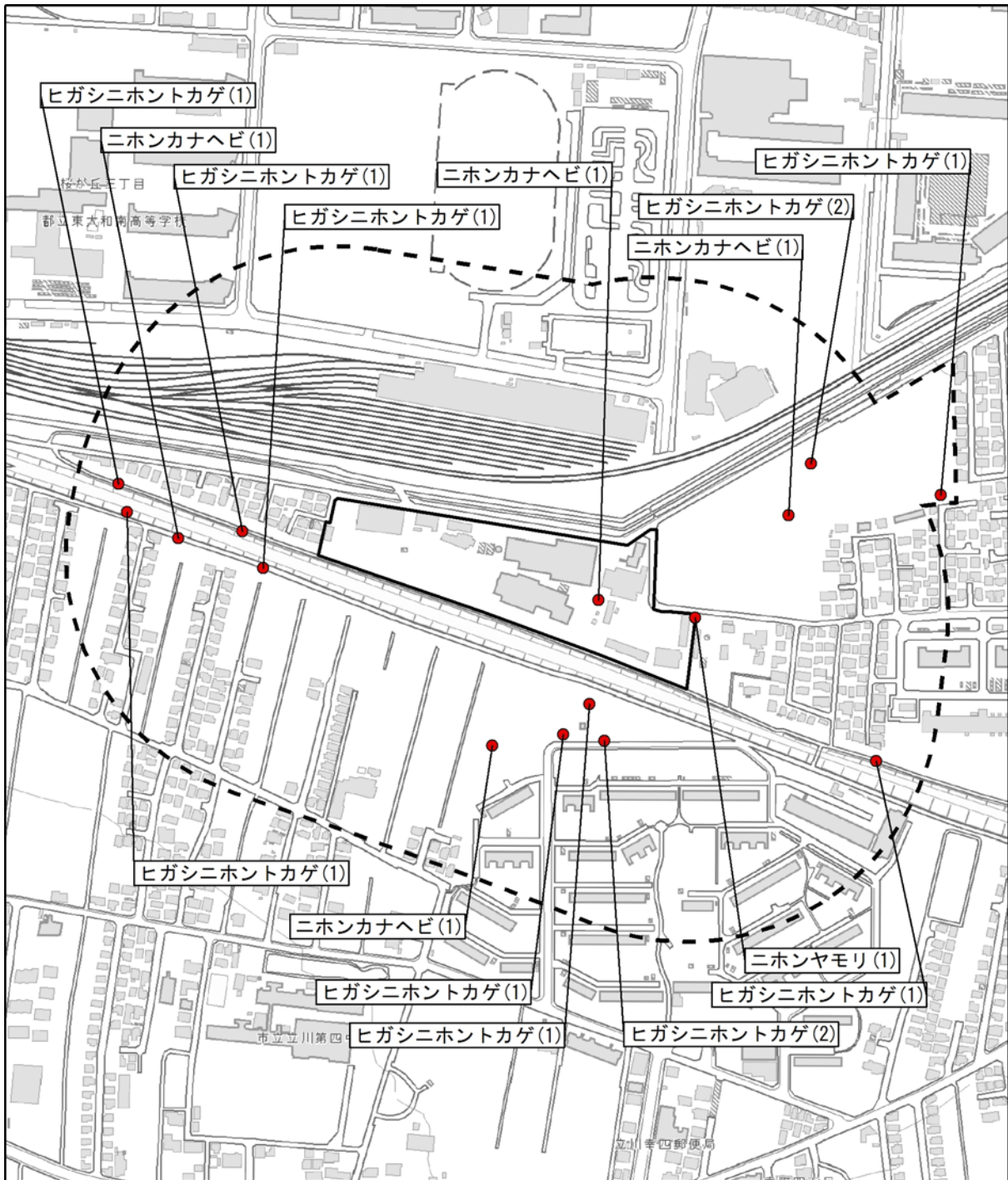
注 2) 注目される種の選定基準は以下のとおりである。

- ①: 「文化財保護法」(昭和 25 年、法律第 214 号)、東京都文化財保護条例 (昭和 51 年東京都条例第 25 号) に基づく天然記念物
  - ②: 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年、法律 75 号) に基づく国内希少野生動植物種
  - ③: 「環境省レッドリスト 2018 の公表について」(平成 30 年 5 月、環境省) の掲載種
  - ④: 「レッドデータブック東京 2013 (本土部)」(平成 25 年 3 月、東京都) の掲載種 ※評価の地域区分は調査範囲の位置する「北多摩」とした。
- VU: 絶滅危惧Ⅱ類、\*: 留意種

表 8.7-14 注目される種（爬虫類及び両生類）の確認状況

No.	種名	確認位置				確認状況
		計画地内		計画地外		
		箇所数	個体数	箇所数	個体数	
1	ニホンヤモリ	2	2	2	2	春季に計画地の1ヶ所で1個体、秋季に計画地及び樹林地の計3ヶ所で3個体が確認された。
2	ヒガシニホントカゲ	3	5	17	19	春季に樹林地、緑道及び耕作地の計10ヶ所で12個体、夏季に計画地及び緑道の計7ヶ所で9個体、秋季に緑道及び植栽地の計3ヶ所で3個体が確認された。
3	ニホンカナヘビ	2	2	6	6	春季に計画地、樹林地、緑道及び耕作地の計4ヶ所で4個体、夏季に計画地及び樹林地の計3ヶ所で3個体、秋季に樹林地の1ヶ所で1個体が確認された。

注1) 確認位置において、「箇所数」は確認した箇所数、「個体数」は確認した個体数を示す。



凡例

- 計画地
- 調査範囲
- 爬虫類確認位置



1:5,000

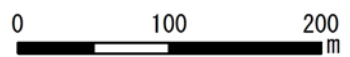


図 8.7-7(1)  
爬虫類の注目される種確認  
位置図 (春季)

( )内は確認個体数を示す。